

如字卷之十

十
八
十
三

へ13
2944
5





萬壽無疆
萬年長壽

十三編

わん
た
た
た



一陽齋豊國画
万亭應賀作

釋迦しやくだ
八相はつさう
倭文わぶん
庫くら
十三編
上之卷

己酉春新刊



錦重堂版
門人田政虫

萬亭應賀作
一場齋豐國画

俗文庫拾三編



下

上

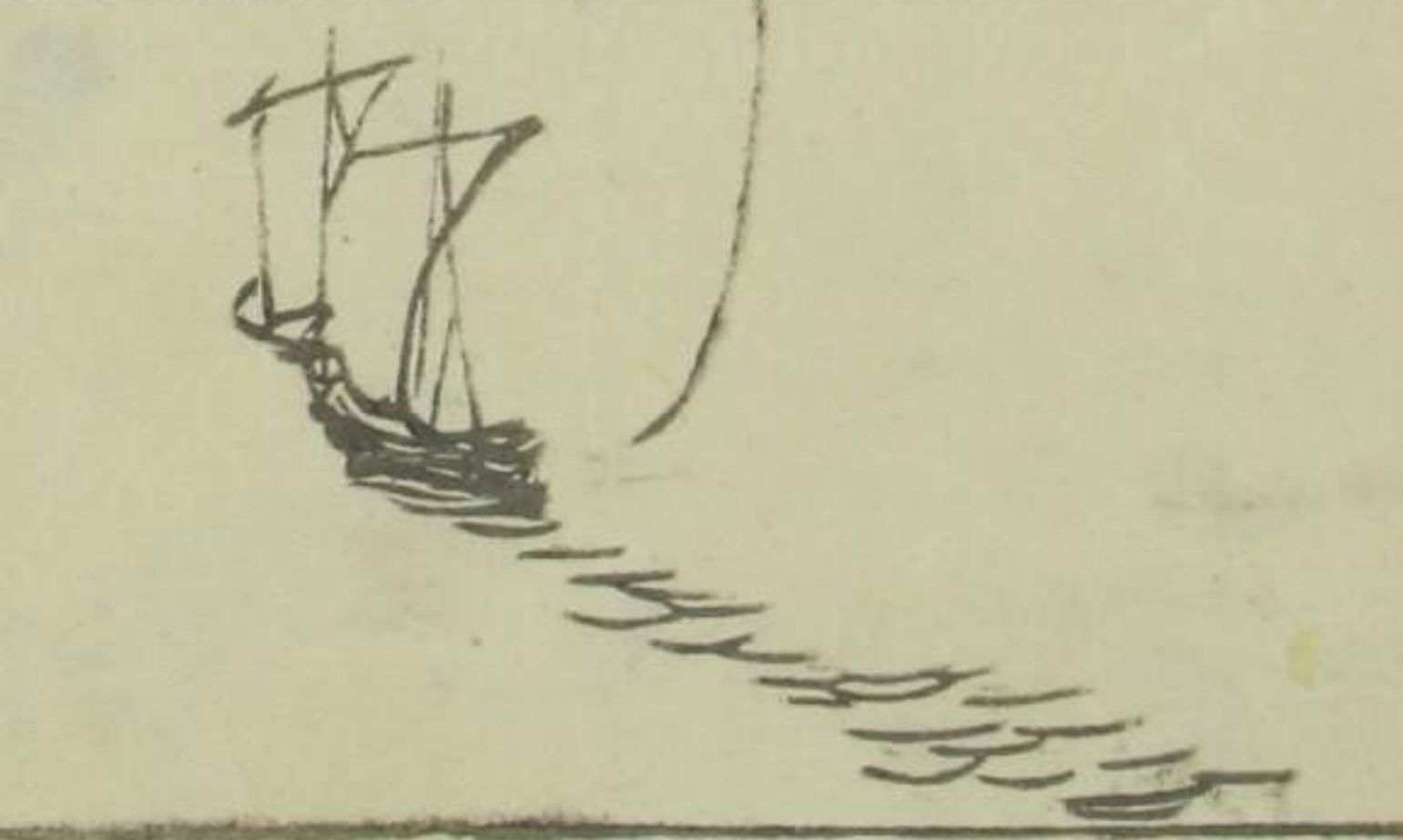
錦重堂梓

應賀志

十二編下の巻

應賀化

壹國画



己酉春

新梓

元大坂町代地

發行

上州屋重藏板

釋迦八相倭文庫拾三編之叙

此卷の耶輪陀羅女太子の御子羅睺羅と産無実の罪
落身と牢獄と沈と観世音と信ト悉達太子の瞿曇
沙弥檀特山の法山領也新水の難行去りて垂垂夢不見
不思議より月景殿の老女の南花遂に思逆露頭及び本
躰鬼子母の次女とありて魔術を施して如毘羅城を立退
まぐを假字書のかみ小和らぐ倭文庫拾三編を
編んくことと今年見味せん致と責まそく拙己の夜更
所業小急はまらり眼が廻り筆の疎忽も多かるべし
と盛覧諸君和解日ふるん

弘化二年己酉
子孟陽新梓發行

万亭應賀志

月景殿の老
 女官南花女
 実の圓満具足
 薬又の妻
 本名鬼子母
 叛逆康路顯
 空て加北雅城
 去



右不
 林凡
 太郎士ト





山々のまじりてあそびてゆくちりあふ
おかしうちりあふと
さきまきくもりの
ちりあふと
おかしうちりあふと
さきまきくもりの
ちりあふと

あつちりあふと
おかしうちりあふと
さきまきくもりの
ちりあふと



あつちりあふと
おかしうちりあふと
さきまきくもりの
ちりあふと



あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき

應賀作曲豆國画

あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき



あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき

あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき
あつたかきかき

されば丸いとおふまゝなりて... 帝の御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

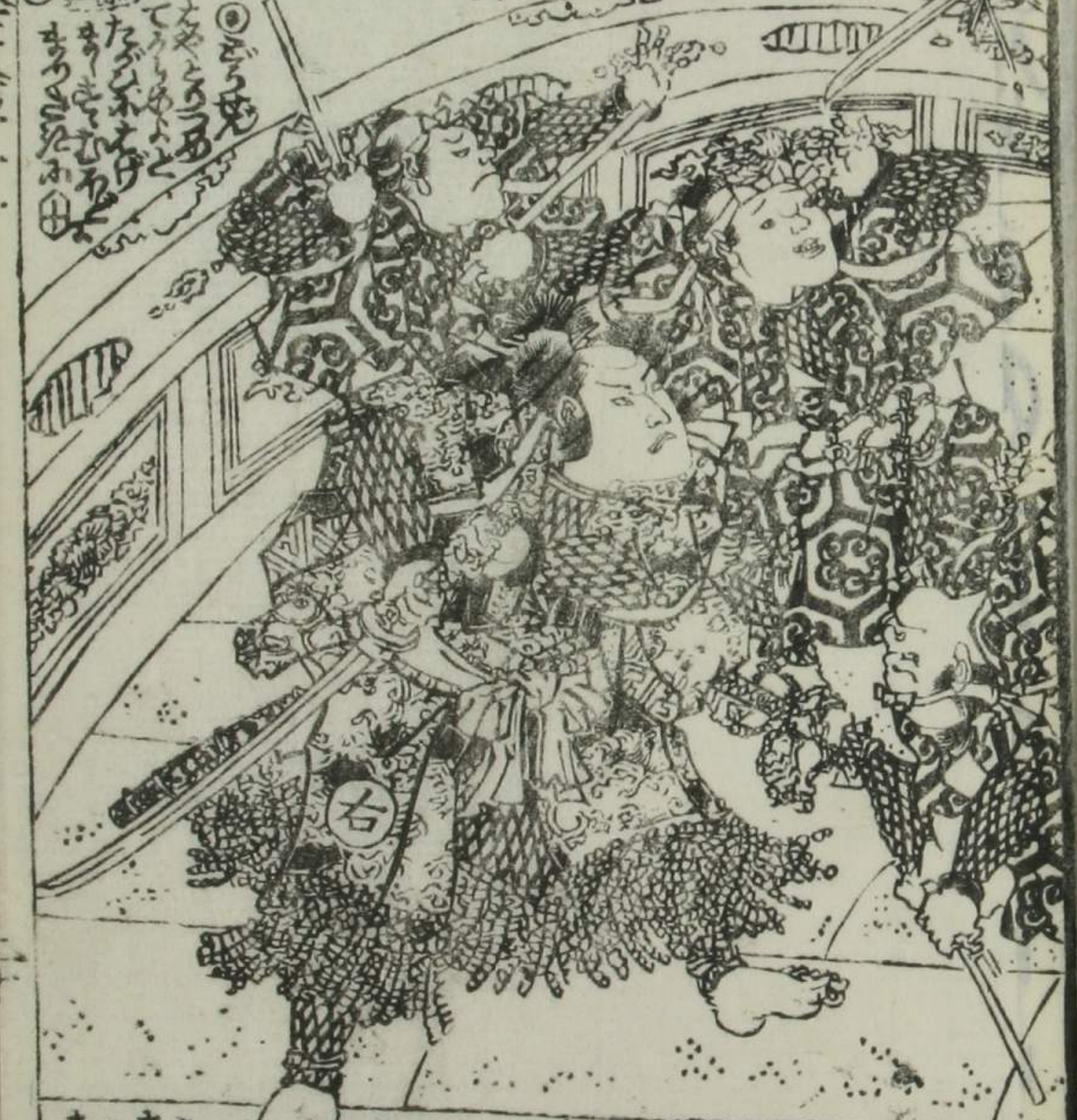
○そのまゝなりて... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

されば丸いとおふまゝなりて... 帝の御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

ちよかの山... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

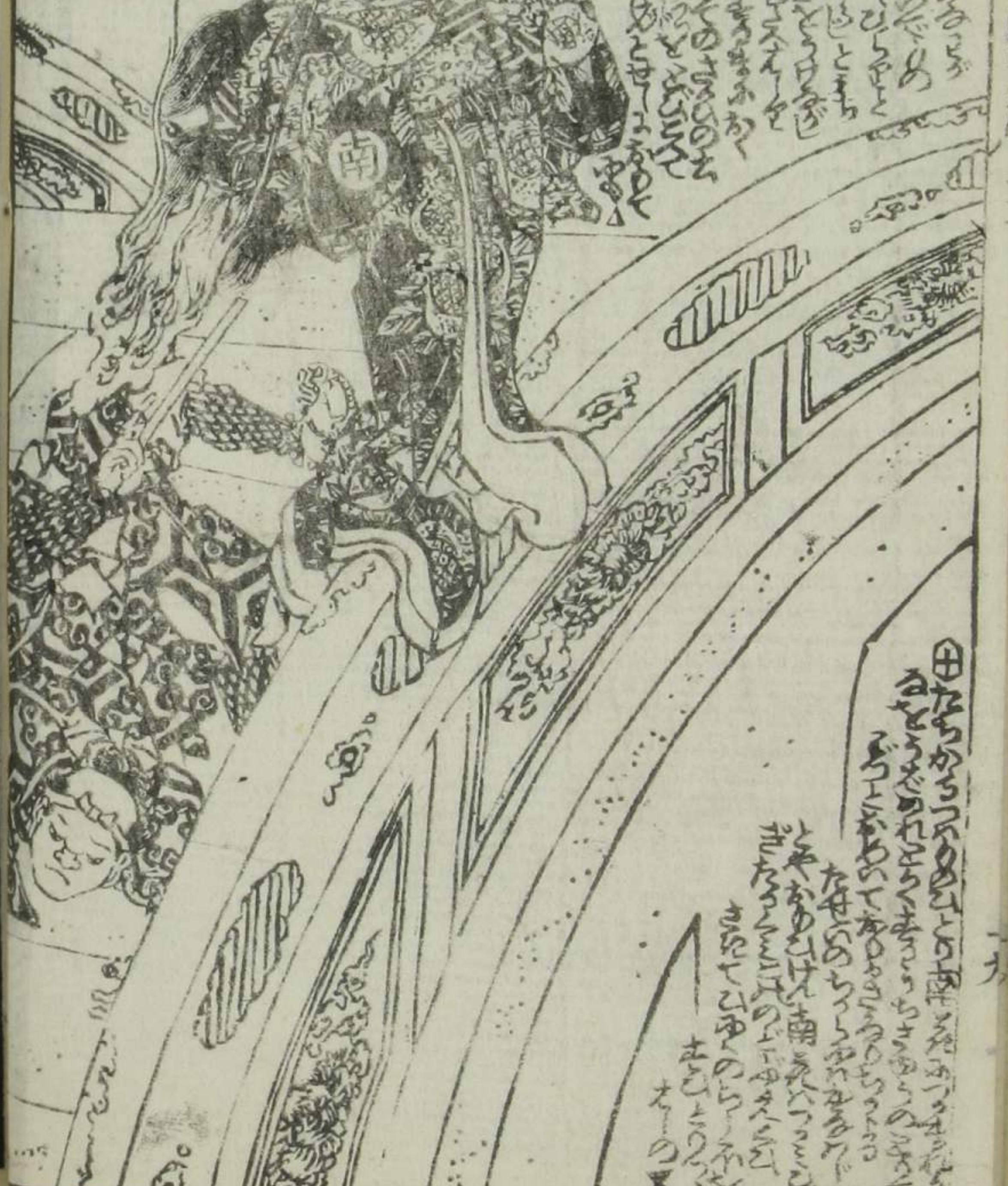


Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely a title or introductory text.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page, possibly a dialogue or commentary.

Handwritten text in vertical columns at the top of the right page.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page.

万亭画作
一陽斎畫



錦重堂梓

屋敷

好

古

十日

編

五
商
年

上州屋重藏版

應賀作

國画

上之卷

嘉永

五
春



八
口

倭文庫

十四編

加永
新春
新刊



錦重堂板

下

永
女
庫
十
四
編
陽
有
豊
國
画

万
亭
應
賀
作



上

庭満を

ぬんま

十の庵ん

下の奏

應賀化

壹國画



口入國画

庚戌
初春

海
多
多
多
多

釋迦八相倭文庫十四編之序

夫如來大悲の法雨五天竺不濺いで漸震日不漫り四夷不溢

遺法の弟子達大教と宣揚し上る貴人高家より

下の方民漁夫樵夫鳥獸魚鱉龜不至まで法雨の甘茶と嘗

ぬるしこれ予も其甘茶と嘗て唯夢茶苦茶と甘口不

人を茶ふさる戲作の業の佛を穢と徒夫と誹謗を

笑さざるも鬼角浮世の釋迦ぬで道楽寺鼻の

下喰殿の建立也

嘉永三庚戌年
孟春吉旦發行

万亭應賀誌





般若其室の
伽羅維の仙人を
尋る

神童子



悉達太子
壇持山と出で

阿羅の仙人



耶
愉
陀
羅
女

大
利
非
人
と
い
ひ
て
耶
愉
陀
羅
女
を
奔
る

五
十
四

三



私
良
麻
の
達
波
女
國

耶
愉
陀
羅
女
の
局
中

五
十
四





此の世の中は
 ひたすら
 山へ

此の世の中は
 ひたすら
 山へ

此の世の中は
 ひたすら
 山へ



此の世の中は
 ひたすら
 山へ

此の世の中は
 ひたすら
 山へ

此の世の中は
 ひたすら
 山へ

此の世の中は
 ひたすら
 山へ

此の世の中は
 ひたすら
 山へ

此の世の中は
 ひたすら
 山へ

傳神圖

万亭應賀作の二陽齋豊國画

神編藻塩草 應賀著
ひのきをいひて...
あはれ...
あはれ...
あはれ...



浄書
金川
あはれ...
あはれ...



十子魚ん
おん
おん

一陽齋豊國画

錦重堂板

陽齋畫國畫



錦堂

下

倭文庫十五編

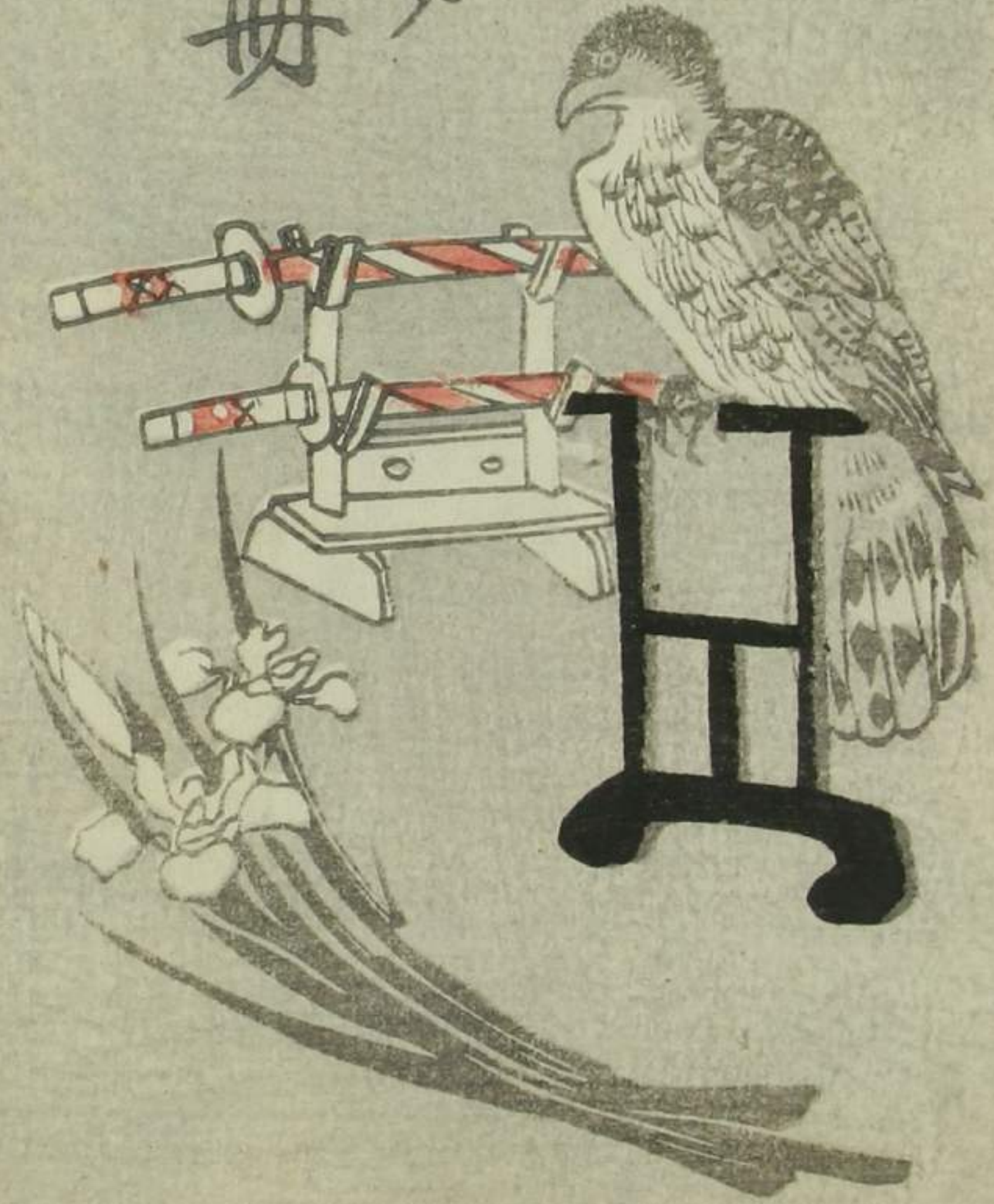
嘉永三年
庚戌孟春
新刊

万亭應賀作



上

家満
婦人
下母
應賀化
壹園画



の
元大坂町
七
版

釋迦八相倭文庫拾五編の序

此卷の悉達太子檀特山の法嶺を阿羅々仙不相別れ

けりん何方
上ハ又カ
本

付
極
法
盤
若

伽四維々仙人を尋揚ふ夏より七耶輸陀羅女危難不
逢ふ形勢を著せしと爾也

嘉永三年庚戌
孟春吉辰開市

万亭應賀誌





耶輸陀羅姫
 夕陽の麓を
 私良國の
 侍波太子不
 奪れ辛に難を
 内と吐く不意
 初大臣の館小
 入る

耶輸陀羅
 女の局女中

初大臣
 奥方の



耶輸陀羅姫



私良國の
達波太子

隔秘
館小耶輸陀羅姫を
達波太子不
諂る

花仙の
親父
初大臣



初大臣の
御子

相撲士
獅子

獅子
花仙女

獅子
花仙女





